

ライフサポートひなた

症例概要 利用者氏名：100歳代 男性 要介護4

既往歴： 腰部脊柱管狭窄症、慢性硬膜下血腫

経過：2025年2月自宅で転倒、骨折の診断はないものの、疼痛が強く動けない為リハビリ目的で竹川病院へ入院、同年4月に在宅生活に向けて、ライフサポートひなたへ入所される。老健でのリハビリを経て12月に自宅退所となり、ひなたの通所リハを再開することができた。

内 容

2025年2月、ご自宅で転倒。骨折の診断はなかったものの強い疼痛があり入院となりましたが、リハビリを経て同年4月に当施設へ入所されました。

入所中の明確な目標は、「自宅に帰り、仲間と麻雀をすること」でした。通所フロアへ降り、かつての仲間と顔を合わせるたびに「早く帰ってきてやろうよ」と声を掛けられ、その際の嬉しそうな表情が強く印象に残っています。この思いを実現するため、私たちは在宅復帰に向けた具体的支援を本格的に開始しました。

しかし退所にあたり、大きな課題がありました。下肢筋力低下により送迎車へのステップ乗車が困難となり、車椅子対応への変更が必要となったのです。さらに、ご自宅玄関の階段介助は高齢の娘さんお一人では難しく、安全確保が最優先課題となりました。

そこで、介護職・リハビリ職・ケアマネジャー・在宅事業所が連携し、以下の支援を具体的に実践しました。

- ①他ご利用者との同乗を避ける単独送迎の実施
- ②本来の送迎時間外での個別対応の調整
- ③ヘルパー2名体制での安全な乗降介助
- ④玄関動線の再確認と介助方法の統一
- ⑤週3回から週2回へ利用回数を段階的に調整

ご本人の身体的負担の軽減と、心理的不安の軽減を最優先に体制を整えた結果、通所リハビリを無

事再開されました。リハビリではサークル歩行器を使用し、積極的に歩行訓練へ取り組まれています。

そして念願の麻雀にも復帰。20歳以上年下の仲間と対等に勝負を楽しまれ、時には助言をする姿も見られます。勝敗は五分以上。ご自宅では、その日の戦績を娘さんに誇らしげに語り、笑顔が絶えないとのこと。

ご自宅には仲間との写真が飾られ、帰りを待っていた愛犬「虎太郎」もご家族の一員として迎えられています。「家に帰る」「仲間と麻雀をする」という明確な目標が、歩行意欲や生活意欲の維持・向上につながっています。

超高齢であっても、目標設定と多職種連携により在宅生活を継続できることを示した実践例です。私たちは、単なる身体機能の回復だけでなく、「その人らしい生活の再開」を支援することの重要性を改めて再認識しました。今後もご本人の思いを中心に据え、在宅生活を支える伴走者であり続けます。